

# 健康福祉学科授業科目及び単位数（令和4年度入学生用）「22番代」

## 1 基礎科目

授業科目	種別	単位数		標準履修学年								備考				
				1年		2年		3年		4年						
		必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年	半期	通年					
教養基礎科目	導入演習	演習	2		○											
	情報処理	演習	2		○											
	学習基礎教養演習	演習	2		○											
	総合英語A(含外国語コミュニケーション)	演習	1		○											
	総合英語B(含外国語コミュニケーション)	演習	1				○									
	総合英語C(含外国語コミュニケーション)	演習	1				○									
	総合英語D(含外国語コミュニケーション)	演習	1						○							
教養展開科目	スポーツと哲学	講義	2	○		○		○						3分野から1科目以上計6単位以上選択必修	人文分野	
	スポーツと現代思想	講義	2	○		○		○								
	心理学概論	講義	2	○		○		○								
	人の心と行動	講義	2	○		○		○								
	ことばと人間A	講義	2			○										
	ことばと人間B	講義	2			○										
	クリケットの発展から見える世界史とその実際	講義	2	○												
	日本の文化Ⅰ	講義	2	○												
	日本の文化Ⅱ	講義	2	○												
	単位互換科目(人文科学系)	講義	2	○		○		○								
	社会学概論	講義	2	○		○		○					社会分野			
	社会構造と人間関係	講義	2	○		○		○								
	消費経済とスポーツ	講義	2	○		○		○								
	世界経済・日本経済とスポーツ	講義	2	○		○		○								
	法学	講義	2	○		○		○								
	歴史学入門	講義	2	○		○		○								
	歴史と人間	講義	2	○		○		○								
	単位互換科目(社会科学系)	講義	2	○		○		○								
	生物科学	講義	2	○		○		○					自然分野			
	エコロジー概論	講義	2	○		○		○								
教養数学	講義	2	○		○		○									
自然災害と人間	講義	2	○		○		○									
単位互換科目(自然科学系)	講義	2	○		○		○									
体育系大学の基礎教養	講義	2		○								「認定」科目				
仙台大学の専門教養演習Ⅰ	演習	2				○										
仙台大学の専門教養演習Ⅱ	演習	2						○								
仙台大学の専門教養演習Ⅲ	演習	2							○							
海外文化科目	スポーツに何故英語が必要か	演習	2	○												
	英会話A	演習	2			○										
	英会話B	演習	2			○										
	英会話C	演習	2					○								
	スポーツ&イングリッシュ	演習	2					○								
	就職のための英語	演習	2					○								
	ロシア語Ⅰ	演習	2	○												
	ロシア語Ⅱ	演習	2	○												
	中国語Ⅰ	演習	2			○										
	中国語Ⅱ	演習	2			○										
	韓国語Ⅰ	演習	2			○										
	韓国語Ⅱ	演習	2			○										
	ドイツ語Ⅰ	演習	2					○								
ドイツ語Ⅱ	演習	2					○									



## 3 発展科目

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年	半期	通年		
運動生理学	講義		2			○							
栄養学概論	講義		2	○									
衛生・公衆衛生学	講義		2			○							
看護学概論Ⅰ	講義		2			○							
免疫・薬理学	講義		2			○							
障害の理解	講義		2			○							
保健医療論	講義		2	○									
介護過程と介護研究Ⅰ	演習		2								○		※
介護過程と介護研究Ⅱ	演習		2								○		
生活支援技術の基礎Ⅰ	演習		2	○									
現代の思想	講義		2			○							
介護総合演習Ⅰ	演習		2			○							※
介護総合演習Ⅱ	演習		2			○							
介護総合演習Ⅲ	演習		2					○					
介護総合演習Ⅳ	演習		2					○					
認知症の理解Ⅰ	講義		2			○							
認知症の理解Ⅱ	講義		2					○					
こころとからだⅠ	講義		2			○							
こころとからだⅡ	講義		2					○					
精神保健学	講義		2			○							
学校保健学	講義		2					○					
健康相談	講義		2					○					
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義		2			○							
ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義		2			○							
老人福祉論	講義		2	○									
社会福祉概論Ⅱ	講義		2	○									
養護概説	講義		2			○							
障害者福祉論	講義		2			○							
発育発達と老化	講義		2					○					
スポーツ医学A	講義		2			○							
スポーツ医学B	講義		2					○					
スポーツ医学概論	講義		2			○							
スポーツ社会学	講義		2	○									
スポーツバイオメカニクス	講義		2			○							
スポーツ経営学	講義		2	○									
スポーツ計量学	講義		2			○							
運動学(含運動方法学)	講義		2			○							
体力相談と運動処方	講義		2			○							
健康支援・介護予防演習	演習		2			○							
福祉レクリエーション実技	実技		1					○					
福祉レクリエーション支援実習	実習		2				○						
障害者とスポーツ	講義		2			○							
ニュー・ゲームズ	実技		1					○					
卒業研究Ⅰ	演習	2						○					
卒業研究Ⅱ	演習	4										○	

注 1) 発展科目は、計22単位以上を修得しなければならない。

2) 発展科目で必要な単位を超えて修得した単位は、すべて卒業単位に含めることができる。

3) ※印の科目は、介護福祉士養成専攻学生のみ履修することができる。

## 4 応用科目

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考	
				1年		2年		3年		4年			
		必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年	半期	通年		
看護学概論Ⅱ	講義		4						○				※
看護学実習	実習		4						○				
臨床心理学	講義		2					○					
レクリエーション支援論	講義		2							○			
チームマネジメント	講義		2					○					
生活支援と障害者介護Ⅲ	講義		2					○					
介護過程Ⅰ	演習		2			○							
介護における安全とリスクマネジメント	講義		2					○					
医療的ケア実施の基礎	講義		2							○			
喀痰吸引	講義		2							○			
経管栄養	講義		2							○			
医療的ケア演習	演習		2							○			
ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義		2			○							
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義		2					○					
ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習		2			○							
ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習		2			○							
ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習		2					○					
ソーシャルワーク演習Ⅳ	演習		2					○					
ソーシャルワーク演習Ⅴ	演習		2							○			
社会福祉援助実習	実習		2					○					
福祉サービスの組織と経営	講義		2					○					
社会調査法Ⅰ	講義		2	○									
社会調査法Ⅱ	講義		2	○									
児童福祉論	講義		2			○							
社会保障論	講義		2					○					
公的扶助論	講義		2					○					
地域福祉論	講義		2					○					
権利擁護を支える法制度	講義		2					○					
刑事司法と福祉	講義		1					○					
教育の基礎理論A	講義		2			○							
教育の心理	講義		2			○							
教育の制度A	講義		2			○							
教育課程論	講義		2					○					
教育方法論A（ICT活用含む）	講義		2					○					
教育相談	講義		2			○							
保健体育科教育論Ⅰ	講義		2			○							
保健体育科教育論Ⅱ	講義		2					○					
保健体育科教育論Ⅲ	講義		2					○					
保健体育科教育論Ⅳ	講義		2					○					
福祉科教育論Ⅰ	講義		2					○					
福祉科教育論Ⅱ	講義		2					○					
障害者教育総論	講義		2			○							
知的障害者の心理・生理・病理	講義		2			○							
肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		2			○							
病弱者の心理・生理・病理	講義		2			○							
知的障害者のスポーツ指導	講義		2					○					
肢体不自由者のスポーツ指導	講義		2					○					
生涯学習概論A	講義		2	○									
生涯学習概論B	講義		2			○							
社会教育経営論A	講義		2					○					
社会教育経営論B	講義		2							○			
社会教育演習A	演習		2					○					
社会教育演習B	演習		2							○			
社会教育実習	実習		1					○					
教育社会学	講義		2			○							
生涯学習支援論	講義		2					○					
日本国憲法	講義		2			○							

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年	半期	通年		
学生アスリートのための社会人基礎力	講義		2			○							
文章表現論Ⅰ	講義		2					○					
文章表現論Ⅱ	講義		2					○					
アルゴリズムとプログラム	演習		2			○							
情報ネットワークとセキュリティ	講義		2			○							
データ処理の基礎	講義		2					○					
メディア・リテラシー実習	実習		1			○							
スポーツ史	講義		2					○					
スポーツ政策論	講義		2			○							
スキーⅡ	実技		1					○					
マリンスポーツⅠ	実技		1			○							
マリンスポーツⅡ	実技		1					○					
ソフトボール	実技		1					○					
野球	実技		1					○					
新体操	実技		1					○					
テーピング	実技		1	○									
レクリエーション実技Ⅱ	実技		1			○							
ボランティア活動実践D	実習		1								○		
海外短期研修A	実習		1	○		○		○		○			
海外短期研修B	実習		1	○		○		○		○			
海外短期研修C	実習		1	○		○		○		○			
海外短期研修D	実習		1	○		○		○		○			

「認定」科目

- 注 1) 応用科目で必要な単位を超えて修得した単位は、すべて卒業単位に含めることができる。  
 2) 生涯学習概論B、社会教育経営論A・B及び社会教育演習A・Bを履修することができるのは、生涯学習概論Aの単位を修得した者に限る。  
 3) 看護学概論Ⅱの履修は、原則として前年度看護学概論Ⅰを履修しなければ履修することはできない。  
 4) ※印の科目は、介護福祉士養成専攻学生のみ履修することができる。

## 5 介護福祉士及び社会福祉士に関する科目

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年	半期	通年		
介護概論Ⅱ	講義		2	○									
生活と生活支援	講義		2	○									
コミュニケーション技術論	講義		2	○									
生活支援技術の基礎Ⅱ	演習		2	○									
介護福祉とレクリエーション活動援助	演習		2			○							
介護福祉とレクリエーション援助演習	演習		2					○					
生活支援技術の実践と応用Ⅰ	演習		2			○							
生活支援技術の実践と応用Ⅱ	演習		2			○							
生活支援と居宅介護	演習		2			○							
生活支援と高齢者介護	演習		2			○							
生活支援と障害者介護Ⅰ	演習		2			○							
生活支援と障害者介護Ⅱ	演習		2			○							
介護過程Ⅱ	演習		2			○							
介護過程Ⅲ	演習		2					○					
介護実習Ⅰ	実習		3			○							
介護実習Ⅱ	実習		6					○					
介護実習Ⅲ	実習		6					○					
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習		2					○					
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習		2					○					
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	演習		2							○			
ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習		2					○					
ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習		6					○					

注 介護福祉士及び社会福祉士に関する科目は、卒業単位に含めることができない。

## 6 教職に関する科目

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考		
				1 年		2 年		3 年		4 年				
				必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年		半期	通年
教職論 A	講義		2	○										
特別支援教育論（児童生徒）	講義		2					○						
道徳教育論	講義		2					○						
「総合的な学習の時間」論	講義		2					○						
特別活動論	講義		2			○								
生徒指導論 A（含進路指導及びキャリア教育の理論及び方法）	講義		2					○						
教育実習 I	講義		1					○		○				
教育実習 II	実習		2					○						
教育実習 III	実習		2							○				
教育実習 IV	実習		4									○		
教職実践演習（中・高）	演習		2							○				
教職総合演習	演習		2					○						
教職総合実技	実技		1					○						
知的障害者の教育	講義		2					○						
肢体不自由者の教育	講義		2			○								
病弱者の教育	講義		2					○						
視覚障害教育総論	講義		1					○						
聴覚障害教育総論	講義		1					○						
情緒障害教育総論	講義		1							○				
学習障害等教育総論	講義		2					○						
特別支援学校教育実習 I	講義		1					○		○				
特別支援学校教育実習 II	実習		2							○				
教職論 B	講義		2	○										
生徒指導論 B	講義		2					○						
養護実習 I	講義		1					○		○				
養護実習 II	実習		4							○				
教職実践演習（養護教諭）	演習		2							○				
教職キャリア演習 I	演習		2					○						
教職キャリア演習 II	演習		2					○						
保健体育科授業研究 I	演習		2					○						
保健体育科授業研究 II	演習		2					○						
福祉科教材・授業研究	演習		2					○						
養護演習	演習		2					○						

注 修得した単位は、卒業単位に含めない。

## 7 自由科目

授 業 科 目	種 別	単位数		標準履修学年								備 考		
				1 年		2 年		3 年		4 年				
				必修	選択	半期	通年	半期	通年	半期	通年		半期	通年
地域スポーツ論	講義		2					○						
スポーツトレーニング論	講義		2			○								
レジャー・レクリエーション論	講義		2			○								
スポーツマネジメント実習 I	実習		1			○								
野外教育論	講義		2					○						
野外活動・レクリエーション演習	演習		2					○						
スポーツマネジメント実習 II	実習		1					○						
スポーツクラブ・マネジメント演習	演習		2					○						
スポーツターフ管理概論 I	講義		2			○								
スポーツターフ管理概論 II	講義		2					○						
アスレティックトレーニング論 I	講義		2			○								
コンディショニング論	講義		2					○						
コンディショニング実習	実習		1					○						
スポーツ栄養学	講義		2			○								

注 修得した単位は、卒業単位に含めない。

# 仙台大学教育課程及び履修方法に関する規程<健康福祉学科>(令和4年度入学生用)[22番代]

## 趣 旨

(趣旨)

**第1条** 仙台大学学則(以下「学則」という。)第34条の規程に基づき教育課程及び履修方法については、学長裁定事項として教授会意見聴取のうえ、学長が定める。

## 教育課程

(教育課程の編成方法)

**第2条** 教育課程は、各授業科目を必修科目及び選択科目に分け、これを各年次に配分して構成する。

(授業科目の区分)

**第3条** 授業科目は、基礎科目、専門基礎科目、発展科目、応用科目及び自由科目に分ける。

2 基礎科目は、教養基礎科目、教養展開科目(人文分野・社会分野・自然分野)、海外文化科目及び人生設計科目に分ける。

(授業科目及び単位数)

**第4条** 授業科目及び単位数等は、別表のとおりとする。

## 授業の方法

(授業の方法)

**第5条** 授業は、講義、演習、実験、実習、若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行う。

## 教育科目の履修

(基礎科目)

**第6条** 基礎科目については、教養基礎科目の7科目10単位(必修)、教養展開科目から6科目12単位以上、及び人生設計科目の3科目6単位(必修)、計28単位以上を修得しなければならない。なお、教養展開科目で必要な単位を超えて修得した単位は、すべて卒業単位に含めることができる。

2 基礎科目のうち海外文化科目については、修得した単位を、すべて卒業単位に含めることができる。

3 単位互換により修得した単位は、教養展開科目(人文分野・社会分野・自然分野)に含めることができる。単位互換の詳細については、学長決定として、学長が別に定める。

4 本条第1項にかかわらず、外国人留学生に関しては、教養基礎科目については、「総合英語A(含む外国語コミュニケーション)」、「総合英語B(含む外国語コミュニケーション)」、「総合英語C(含む外国語コミュニケーション)」、「総合英語D(含む外国語コミュニケーション)」に替えて「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」、「日本語Ⅲ」、「日本語Ⅳ」の4科目8単位(必修)を修得しなければならない。また、教養展開科目について、「日本の文化Ⅰ」、「日本の文化Ⅱ」の2科目4単位(必修)を含む8科目16単位以上を修得しなければならない。

(専門基礎科目)

**第7条** 専門基礎科目については、講義科目11科目22単位及び実技科目5科目5単位以上(必修・選択必修)、計27単位以上修得しなければならない。

2 専門基礎科目で必要な単位を超えて修得した単位は、すべて卒業単位に含めることができる。

(発展科目)

**第8条** 発展科目については、22単位以上を修得しなければならない。必要な単位を超えて修得した単位は、すべて卒業単位に含めることができる。

(応用科目)

**第9条** 応用科目は、修得した単位すべて卒業単位に含めることができる。

(介護福祉士及び社会福祉士に関する科目)

**第10条** 介護福祉士及び社会福祉士に関する科目については、介護福祉士並びに社会福祉士受験資格の取得に必要な関連科目とし、その履修方法については別に定める。

修得した単位は卒業単位に含めない。

(自由科目)

**第11条** 自由科目は、学長裁定事項として教授会意見聴取のうえ、学長が別に定める他学科科目とする。修得した単位は卒業単位に含めない。

(履修の手続)

**第12条** 学生は、あらかじめ履修しようとする授業科目を決め履修の登録をしなければならない。

履修手続については、学長決定事項として、学長が別に定める。

2 前項の履修登録を行っていない授業科目は、履修することができない。

(C A P制)

**第12条の2** 原則として学科・学年を問わず、1年間に履修登録できる単位数の上限を49単位とし、それを超えての履修登録はできない。

2 前項に関わらず、成績等により上記の単位数を超えて履修登録することができる。

3 第1項及び第2項に係るC A P制の運用に関する事項は、学長指示事項として必要により教授会の意見を求め、学長が別に定める。

(履修の取消)

**第13条** 履修登録した授業科目を途中で取り消す場合は、所定の手続きによって担当教員の許可を得るものとする。

(定期試験)

**第14条** 定期試験は、原則として学期末に行う。但し、必要があるときは、この限りではない。

2 試験は、筆答試験、レポート、口述試験等のいずれか又は併用によって行われる。但し、実験、実習及び実技については、平常の成績及び定められた課題によって行う。

(受験資格、受験方法等)

**第15条** 受験資格、受験方法等については、学長決定事項として、学長の命により教務委員会が別に定める。

(試験における不正行為)

**第16条** 試験において不正行為があった場合は、当該学期に受験した全科目を無効とする。

(追試験)

**第17条** 病気及び単位互換に伴う単位認定試験受験など、その他やむを得ない事由により定期試験を受けることのできなかった者は、追試験を受けることができる。その詳細については、学長決定事項として、学長の命により教務委員会が別に定める。

(特別試験)

**第18条** 不合格となった授業科目の再試験は行わない。但し、卒業又は本学で認める資格取得に必要な科目の一定の単位が不足している者については、特別試験を行う。その詳細については、学長決定事項として、学長の命により教務委員会が別に定める。

(成績評価)

**第19条** 成績評価は、学年末又は授業が終わった学期末に行われる。

2 評価は、原則として試験の成績及び平常の学業成績に基づいて行われる。

3 履修成績の評価の区分は次に掲げるとおりとし、「可」以上を合格とする。

- ・「秀」 90点以上
- ・「優」 80点以上から89点まで
- ・「良」 70点以上から79点まで
- ・「可」 60点以上から69点まで
- ・「不可」 60点未満
- ・「放棄」 総授業時間数の3分の2未満の出席又は定期試験未受験等

4 前項にかかわらず、一部の科目については、次に掲げるとおりとし、「認定」を合格とする。

- ・「認定」 60点以上
- ・「不可」 60点未満
- ・「放棄」 総授業時間数の3分の2未満の出席又は定期試験未受験等



- 5 学則第31条の2、第31条の3、及び第32条の規程に基づき認定した単位等の評価は、「認定」とする。
- 6 大学教育における成績評価基準の標準化及び厳格な成績評価のために、GPA（グレードポイントアベレージ）による成績評価を行う。GPAの運用に関する事項は、学長指示事項として必要により教授会の意見を求め、学長が別に定める。

（再履修）

**第20条** 修得した授業科目は再履修することができない。

（単位の取消）

**第21条** すでに修得した授業科目の単位は取り消すことができない。

（履修単位の保留）

**第22条** 当該学期の学費が未納の場合は、納入されるまでの間、履修した授業科目の単位は保留される。

（履修成績の通知）

**第23条** 履修成績は、成績通知書により通知する。

（修学改善勧告及び退学処分）

**第24条** 1年間に履修した授業科目につき、16単位以上を修得できない者（卒業単位を修得した者又は従前の修学状況等により修学改善勧告を行うことが適当でないと判断される者を除く）に対し、学長裁定事項として教授会意見聴取のうえ、学長が修学改善勧告を行う。

- 2 修学改善勧告を受けた者で、次年度においても改善の意思がないと判断される者について学則第38条にもとづき退学処分とする。

（規程の改廃）

**第25条** この規程、学長裁定事項として教授会意見聴取のうえ、学長が改廃する。

**附 則**

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

**附 則**

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

- 2 この規程の第4条及び第10条は、平成24年度入学生より適用する。なお、この規定にかかわらず、平成24年度以前から在学する者、並びに平成23年度以前の編入学生については、一部の科目を除き従前の規定によるものとする。

**附 則**

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

**附 則**

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

- 2 この規程の第4条及び第6条は、平成27年度入学生より適用する。なお、この規定にかかわらず、平成24年度から平成26年度までの入学生、並びに上記年度入学生が属する学年に編入する編入学生については、一部の科目を除き従前の規定によるものとする。

**附 則**

- 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。

- 2 この規程の第4条は、平成28年度入学生から適用する。なお、この規定にかかわらず、第24条は平成28年4月1日に在学する者に適用する。

**附 則**

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

## 附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

### (1) 試 験 細 則

(趣旨)

**第1条** この細則は、「教育課程及び履修方法に関する規程」(以下「規程」という。)第14、15、16、17条、18条の規定に基づき、試験に関して学長指示事項として必要により教授会の意見を求め、学長が定める。

(試験の種類)

**第2条** 試験の種類は、定期試験、追試験及び特別試験とする。

(定期試験)

**第3条** 定期試験は、「規程」第14条に定めるとおりとする。

(追試験)

**第4条** 追試験は、「規程」第17条に定めるとおりとする。

2 定期試験を受けることができないため追試験を受けようとする者は、その理由を明らかにする書類を添え、原則として授業終了日までに教育企画課に届け出て、追試験願を提出しなければならない。

3 追試験を許可された者は、所定の手数料を納入しなければならない。但し、病気及び単位互換に伴う単位認定試験受験など、やむを得ない事由による追試験受験の場合は、手数料を徴収しない。

4 追試験は、当該学年の成績提出期限までに行うことを原則とする。

(特別試験)

**第5条** 特別試験は、「規程」第18条に定めるとおりとする。

2 特別試験は、卒業年次に履修した科目で、合格点に達しなかった科目4科目以内の者に限り、受けることができる。

3 特別試験を受ける者は、教育企画課に届け出てその指示を受け、所定の手数料を添えて特別試験願を提出しなければならない。

4 特別試験は、学長決定事項として、学長が別に定める期間に行う。

(受験資格)

**第6条** 試験を受ける者は、次に掲げる各号を満たす者でなければならない。

一 試験を受けようとする授業科目を、その学年において登録していること。

二 同一科目について前年度までに単位を修得していないこと。

三 各履修科目の総授業時数の3分の2以上出席していること。

(受験の方法)

**第7条** 筆答試験を受ける者は、指定の日時・試験場で受験しなければならない。レポート試験、又は口述試験を受ける者は、担当教員の指示により受験するものとする。

2 学生証を携帯していない場合は、受験を認めない。

3 その他、受験の方法等については別に定める。

(細則の改廃)

**第8条** この細則は、学長指示事項として必要により教授会の意見を求め、学長が改廃する。

## 附 則

この細則は、平成7年4月1日から施行する。

## 附 則

この細則は、平成12年4月1日から施行する。

## 附 則

この細則は、平成31年4月1日から施行する。

## (2) 受験心得

受験に際しては、以下の事項を厳守すること。

- 1 指定された試験の日時・試験場で受験すること。
- 2 学生証は必ず携帯し、指定の座席の机の上に提示すること。
- 3 持込みを許可されたもの以外は、すべて腰掛の下に置くこと。(机の中には入れないこと。)
- 4 机上にまぎらわしい文字が書き込んである場合は、挙手し、監督の点検を受けること。
- 5 教室の机、腰掛を監督者の許可なく、移動してはならない。
- 6 受験者は、試験開始後20分以上経過した場合は、入室できない。また、受験開始後30分を経過するまでは退室することはできない。
- 7 答案用紙を持ち帰ってはならない。
- 8 受験者は、試験場内において、一切不正な行為をしてはならない。
- 9 不正行為があった場合は、「教育課程及び履修方法に関する規程」第16条により、当該学期に受験した全科目が無効となる。さらに、その他の処分が学長指示事項として必要により教授会の意見を求め、学長が決定することがある。
- 10 その他、試験場においては、すべて監督者の指示に従わなければならない。

### GPAポイントの算出について

GPAポイントを以下のように定める。誤解の無いよう、正しく理解することが求められる。

合格：秀・S (90～) = 4、優・A (80～) = 3、良・B (70～) = 2、可・C (60～) = 1

不合格：不可・D (~59) = 0、放棄・F = 0

#### <算出式>

$$GPA = \frac{4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (DやFの単位数も含む)}}$$

\* 小数点第4位を切り捨て、小数点第3位までの数値で表示する。

#### <留意点>

- ① 認定・N：「認定」の科目は、GPA算出の対象としない。
- ② 履修登録変更期間以降に履修放棄をした科目は、原則として算出の分母に加える⇔GPAポイントが必然的に低くなる⇔**変更期間以降は安易に放棄することなく、最後まで受講し確実に単位を修得すること。**
- ③ 秀「S」とは、教員が設定した学習目標に対し、ほぼ完全に目標を達成した学生に与えられる。

### CAP制の特別措置

前年度のGPAポイントが

- ① 2.0ポイント以上の場合、履修登録に8単位の追加を認める。
- ② 2.5ポイント以上の場合、履修登録に12単位の追加を認める。
- ③ 3.0ポイント以上の場合、履修登録に16単位の追加を認める。